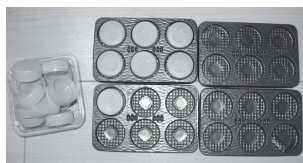


5. 掛け算の概念をつかみ、計算に慣れるワーク

楽しみながらしっかり概念を身につけ、ゲーム感覚で暗記、九九も楽しくマスター

掛け算の概念を目で見て身につける

式や文章問題を頭の中にイメージすることが難しい子がいます。そして、物を使って目に見える形にすることでぐっと理解しやすくなる子がいます。



写真の、6の段用のアイスクリーム「ピノ」のケースと、それにぴったり入るペットボトルのふたで説明しましょう。

写真はケースが4つです。「 6×4 」は、九九を覚えた子はすぐ答えますが、6のかたまりが4つあることだということを、目で見て再確認できます。

さらに、「ほんとに24?」「じゃあ数えてみよう」「6このケースが4つあったら、ほんとに24こだったね」「 6×4 は、6のかたまりが4つという意味だったんだ」「いちいち数えなくても、掛け算九九を覚えていればすぐに答えが出て便利だね」と、反応はいろいろです。

身近な目に見える教材の魅力

学校に数ブロックやおはじきがたくさんある場合はそれらを使うといいでしょう。でも、もしそれが十分になれば、九九の各段に合った空きケースやペットボトルのふたをみんなで探すことでも、九九はずっと身近になってきます。

数がわかりやすいようにペットボトルに数字を記入したり、シールを貼ったりして

もよいでしょう。ペットボトルのふたならすぐに集まるのでたくさん用意できますし、汚れたら気軽に取り替えることができます。

掛け算の概念を身につけさせる際だけでなく、計算問題での確認や文章問題などでも使えます。物を用いることで、目で見て個数が増えていくことがわかり、何個なのかを実際に数えることができるというメリットもあります。

ちなみに、8の段用は、「チルドしゅうまい」のケースと大きめのペットボトルのふたです。チョコレートのケースや卵パックでもよいのですが、「ピノ」はペットボトルのふたがちょうどぴったりにおさまるのでわかりやすいのです。



入れ物がなければ、色画用紙などに○を印刷しておいたり、シールを貼っておいてもよいでしょう。

掛け算九九遊び

とはいえ、算数の学習でつまずきやすいものの一つが掛け算九九です。2年生で学習する掛け算九九が覚えられなかったことから、どんどん算数がわからなくなってってしまう子も多いのです。

そこで、掛け算九九に親しませる方法の一つ、「掛け算九九クイズ」です。ただ唱えるだけではなく作業を伴わせることで覚